

## やねだん第23回故郷創世塾参加レポート

### 1. 概要

やねだん創世塾は平成19年にスタートし毎年5月と11月の年2回開催されている。昨年までの卒塾生は全国に934名誕生しており当法人からは9回生の山田一久理事長はじめとする16名が卒塾、スーパー創世塾は3名卒塾。

### 2. 目的

地域再生には「良きコーディネーター」「良きリーダー」が不可欠。特に企画力、演出(アドリブ)力、財務力、そして「人間力」養成は「一生の宝」。明日の地域リーダー養成を目的に合宿形式での超講師陣による講義、現場主義発想の実体験を行う。

- ① リーダーとしての術である「文章力」「想造力」「思考力」「プレゼン力」を養う。
- ② 奉仕の精神から生まれる本物の感動とは何かを学ぶ。
- ③ 地域づくりにおける地域住民との役割分担について学ぶ。

### 3. 期日 平成30年5月18日(金)～5月21日(月) 『3泊4日』

場所 鹿児島県鹿屋市串良町小原4694-2 柳谷公民館他

参加者 51名

### 4. プログラム

日時	8:00	12:00	13:00	18:00	20:00	24:00
5/18 (金)			開講式 やねだん DVD 講義 椎川 忍氏	休憩	やねだん子供たち 講義 木村俊昭氏 講義 土居龍一氏 豊重塾長	
5/19 (土)	集落民インタビュー アート似顔絵	休憩	講義 関ひさみ氏 キムデファン氏	休憩	講義 森吉弘氏 やねだん集落民 講義 土居龍一氏 豊重塾長	
5/20 (日)	講義 森吉弘氏 霧島が丘 散策 集落内散策	休憩	講義 岩切剛志氏 講義 山田一久氏 講義 木場和明氏	休憩	やねだん集落民 アートカフェ 講義 土居龍一氏 豊重塾長	
5/21 (月)	塾長まとめ 各自反省	閉塾式	解散			

## 1日目(5/18)

- ・講義 講師：椎川茂氏 一般財団法人 地域活性化センター理事長

—今こそ、地方創生から自分たちの地域創生へ

やねだんがなぜ注目されているのか？20年前に自分たちの地域は自分たちで守らないといけない。人任せにしたらいけないと気づき豊重公民館長を中心に実践。地域創生を成し遂げたてきた集落。どこの地域でも地方創生が必要な時だからこそ注目されている。

人材育成がすべての基本。地域経営をする人材の中心は公務員。だからこそ異業種交流でイノベーションを起こせ。民間的な経営感覚を大切にし、住民の皆さんがどういふ意見を持っているのかを虚心坦懐に聞く気持ちが大切。縦の繋がりだけを大切にするのはではなく横との繋がりも大切。現場を知る。何が求められているのかを把握する。広い視野を持つために異業種交流で頭を柔らかく。気が利くといわれる人になれ。

自治体職員は、今こそ原点に立ち返り、地域に飛び出そう。おぎなりな仕事のやり方をせず、地域の知恵、ノウハウ、人脈を総動員して課題解決が必要。現場主義をつらぬけ。「自分にしかできない、自分でなければできなかつたと自負できることを残す。」  
「なくすことは簡単。なくさずどうして守っていくか、なくす代償は大きい」



- ・講義 木村俊昭氏 東京農業大学教授 地域活性化学会理事

—成功の方程式 できる化・見える化・しくみ化—

行動するまちづくりへの提言、それが五感六育。五感とは、見る、聞く、嗅ぐ、触る、味わう。まず、我が地域を五感でとらえよう。六育とは、食育、遊育、知育、木育、健育、職育。地域で、六育を実現しよう。具体的に情報共有、続いて役割分担をしっかりと考える。次に出番創出をしてあげる。そして、事業を構想し、継承し、事業構築とつなげる。

木村方程式まちづくりは、 $(3 + 3 + 6 + 6) \times 2$ 。これは、まちが変わるには、3年かかるということを示したもの。3か月で現状と課題の把握を行い、3か月で課題解決策と先取り策を構想。次に6か月間、実践・検証、構想を行い、次の6か月も実践・検証を継続する。これで1年半となり、これを2サイクル繰り返す。最後に、「笑顔、感動、感謝」。



## 2日目(5/19)

- ・講義 関ひさみ氏(6回卒塾) 合同会社オフィス・イエローシード  
人材育成コンサルティングファーム ビジョン

—共創ぐるぐる会議—

3つのルール①全部肯定 受け入れるのではなく受け止める

どんな発言にも「いいねー」の返答

②すべての人が発言

一人一案以上 テーマに沿って必ず何か言う。

③ありがとう 縁あって同じ場所に身を置いている一期一会に



- ・講義 キムデファン氏 ジェイズゴルフリゾート 日本事業所 常務理事  
—経営者として感じる事—

駄目な上司にありがちな指示 「お前」「おーい」「やれ」

部下が言いたい事が言えない空気をつくるのは最低

上司は部下の顔を見て仕事をする事 指示の細かさが必要

業者が何を求めているかを知り

部下の得意分野を引出し育て上げる

チャンスは突然訪れる→今する

苦情対応 とにかくすぐに謝る



- ・講義 森吉弘氏 就職道「森」ゼミ代表 帝京大学総合教育センター講師  
—チームビルディング～メンバーの多様な視点を活かすには—  
どんな意識を持って言葉を送るか→思考が変わり、行動が変わり、チームが変わり、会社が変わる。良い文化と習慣を「個」からつくる必要がある。  
チームとは→目標に向かって多くのモノを共有し、努力を続ける固定の集団  
チームワークとは→チームの要求レベルに到達するために自己責任で努力を続けた上で、技術的・精神的・身体的な協力体制が整っている状態  
チームビルディングとは→目標達成・生産性向上の為に、メンバー間の連携を高めるための様々な手法の総称。

チーム成長プロセス

- ① 「チーム意義」(横の連携と協力)「安全な場」(本音が言える場)
- ② 「信頼関係」(どんなことも受け入れる)「自信と本気」(達成意欲が高い)
- ③ 「貢献意欲」(改善提案やアイデア)「当事者意識」(誰かするだろう→自分が出れることを探す)
- ④ 「リーダーシップ」(全員と発想)「ビジョン・ミッション」(形だけでなくコミットし、体現していく) ・批判、攻撃、文句はチームにとって無意味



### 3日目(5/20)

- ・アートに挑戦(似顔絵) 講師：画家 石原啓行氏 はがきに似顔絵スケッチ体験
- ・きりしまが丘 バラ園散策



- ・講話 岩切剛志 鹿児島県副知事

—これからの時代 地域づくり、人づくりを考える—

我が国の人口は2008年をピークに減少に転じ2050年には10,192万人となると予想されている。鹿児島県はここ10年間で毎年1万人程度減少している。人口減少に制度や仕組みが追いついていない現状がある。出生数の増加と社会減少をいかに少なくするかが大切なテーマである。

人口減少に関して東京一辺倒からの脱却、価値観の転換が必要  
地方創生の取り組みとしては東京一極集中の是正と少子化対策  
鹿児島県としては一次産業と観光を中心にプロジェクトベースの取り組み  
地域づくりの方向性 地場産業、社会的企業、一次産業の6次産業化

LCC 航空に見る、新たなビジネスモデルで需要の掘り起し  
地域資源を生かして付加価値を生み出す、働く場をつくる  
共生・協働の仕組みづくり⇒地域で役割分担し、できることは自分たちでやる。

人づくり 「なぜ？」から始めたい

リアルに目を向ける 子供の貧困対策を通じて、働き方や行政職員のあり方まで考える



- ・講義 山田一久氏 社会福祉法人スマイリング・パーク理事長

—「地域づくり」(幸福を実感する方程式)—

- ・価値観の違いは当たり前。同じものを見ても皆感じ方は違う。
- ・理解しあうことの大切さ
- ・自分の生活に不安がなく暮らせる地域づくり



- ・講義 3日間 土井龍一氏 株式会社アグリビジネスサービス  
アグリビジネスプロデューサー

—地域づくり(再生)におけるその推進体制と地域リーダーの役割—

アグリビジネスの実践による地域活性化事業は地域に住む人々にとって魅力ある地域づくりとも不可欠に結びついた事業である。

地域づくりは人づくりである。

地域づくり(活性化)の前提条件の3点

- ① 潜在的な魅力(農業・観光等)資源の掘り起こしに寄与しているか
- ② 地域づくり構想推進のための「小規模な地域マネジメント組織」が構築されつつあるか
- ③ 自分たちが目指す「地域づくり構想」の策定に当たってはある程度似たような構想事例を見つけ出し、活かせるヒントを探りながら構想を策定しようという努力が認められるか



- ・講義 3日間 豊重哲郎塾長 (柳谷町内会長)

- ・出る杭は打たれる→出ないか、打たれないくらい出る。やるからには中途半端ではなくとことんやる。やってやれないことはない。
- ・分析+考え+提案=コーディネーター役  
目配り、気配り、心配りの重要性。
- ・習慣はいつのまにか自分を作り上げる。
- ・予てから→日々の積み重ね
- ・実体験→自分の目で見えて感じてどう動くか。どうしなければならないのか。  
様々なシュチュエーションからの学び

おわりに

塾長からの教えの中で一番印象に残っている言葉は「地域づくりは人づくりである」。  
「教育とは変わる事、その事である。」自分が変わる事。相手が変わる事を求めてはいけない。「目配り」「気配り」「心配り」。必要以上に頑張らなくて良い。